

第 19 回安全計画シンポジウム

「建築物の想定外災害に対応した安全計画のあり方ー地震・火災に対する人命安全を中心として」

建築計画委員会 安全計画小委員会

シンポジウムは 4 つの主題解説（下記①～④）と討論で行われた。

①「近年の災害事例から見た想定外災害の考え方」では、想定外災害を原因別に分類し対策例などをまとめた。その中で、建築設計で取り組める課題として、設計情報の共有と整備、想定する水準など判断基準の整備があること、想定する目標レベルの設定の必要性などを述べた。

②「火災に対する人命安全対策の想定条件」では、火災における避難安全性については火災リスクの概念を導入することが望ましいことを述べ、さらに、目標リスクと設計火源の検討を行うことで想定範囲を拡げ、想定外の火災でも性能がゼロにならないことの重要性などを述べた。

③「地震に対する人命安全対策の想定条件」では、建築物の平均寿命と大地震の発生する期間の関係から、災害が想定外でなく楽観視による可能性を述べた。また、耐震性向上の新しい技術をコストダウンに適用するのではなく、コストを下げずにより高い性能の構造物の普及が重要であることなどを述べた。

④「想定外の事態に備えるためのリスク軽減手法の考え方」では、大規模化・集約化に伴うリスクの発生と、リスク回避のための冗長性の重要性を述べた。また、想定外が本当に想定外であるかを検討することの必要性、たとえばバックアップのシステムを用意していても同じリスクを抱えている可能性などを述べた。

記録：村井裕樹（兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所）